

漁対協第7回会議で出された答申案に対する主な意見とその対応について

	第7回会議 答申案に対する意見等	第8回会議 答申案での対応	資料編での対応
はじめに	下記のような、大きな視点からの表現が必要		
	・生物多様性(できるだけ今の状態を保ちながら進めていく)	p1「2 配慮すべき事項」に以下を記載 (3)生物多様性を保全するよう配慮し、海岸域及び沿岸域に生息する動植物の維持に努める。	
	・水産資源の維持をするうえでの漁業の継続	p1「2 配慮すべき事項」に以下を記載 (7)水産資源を維持しながら、漁場を有効かつ持続的に利用できることを考慮する。	
	・漁民のなりわいが成り立つ自然を維持していく。	p1「2 配慮すべき事項」に以下を記載 (3)生物多様性を保全するよう配慮し、海岸域及び沿岸域に生息する動植物の維持に努める。 (7)水産資源を維持しながら、漁場を有効かつ持続的に利用できることを考慮する。	
	・鎌倉の海のように生態系に依存する人々がいることが一つの自然遺産である。	p6「6 まとめ」上から3段落目(17行目以降)に以下を記載 「海を知る」「海を守る」「海を利用する」。この3つの言葉は強く連結したものである。漁業が崩壊した沿岸域は自然の姿を失い、環境も生態系も見る影もない。一方、鎌倉の沿岸環境は保全され、生物多様性を確保し続けていることは、水産資源生物を持続的に利用してきた沿岸漁業の果たした役割は大きい。	
位置	Ⅱ案を選んだ理由がわかりにくい。表にしたらどうか。	p1~p3「3 漁港の位置について」表現を以下のように見直す 前回の答申案では6つの評価項目「波浪・潮流」「漂砂」「自然環境」「海域利用」「市街地利用との関係」「景観」に着目した内容だったため、各候補地の特徴が分かりにくかった。今回の答申案は、Ⅰ案からⅢ案までの各候補地の評価を説明した上で、Ⅱ案という結論を記載した。	p5 表 4.1(仮称)鎌倉漁港の整備位置に関する比較検討一覧(1/2) p6 表 4.1(仮称)鎌倉漁港の整備位置に関する比較検討一覧(2/2)
	第Ⅱ案の方向で協議が進んでいるが、市街地利用との関係でⅢ案も視野に入れたいとけいなくもならない。	p6「付記」の2に以下を追記 2 Ⅲ案については、背後に住宅地がないことから市街地への影響が最も小さいが、3案の中では波浪の影響が最も大きく、漁船の入出港の安全が懸念された。しかし、安心して漁船を係留できる漁港であれば、これらの課題が解消され、Ⅱ案に替わる候補地と成り得る。	
	市民利用のために埋め立てを増やすよりも、周りの施設(旧県営駐車場)との連携した方策について言及してはどうか。	p2「3 漁港の位置について」最後の段落(下から4行目以降)に以下を追記 Ⅲ案は最も湾口に近く、市営プール前の駐車場近傍に位置する。市民の生活環境への影響が最も少ないことが大きな利点である。さらに、旧県営駐車場用地が有効に利用できれば、構造物の建設に伴う海域の埋め立て面積が減少することから有利な条件となる。	
	取り方によって違う理解をされないように、「こうしか読めない」という書き方をしなければいけない。	p5「6 まとめ」下から2行目にも以下を明記 漁港の位置は坂ノ下から稲村が崎に向かう海岸のほぼ中央部(図1参照)のⅡ案が最も適している。	
	「海岸利用の適正化を進める」との表現は具体的な説明が必要ではないか。	「海岸利用の適正化を進める」という表現は削除 代わって答申書6ページの「まとめ」、上から5行目以降の「海岸の総合的管理」の中で大きな視点から説明。	
規模、機能	「最大所要量」の根拠と説明が必要ではないか。		p15~p17「最大所要量」の算出根拠で説明。
	各寸法を規定する模式図が必要ではないか。	p4「図2 漁業者要望案(多目的広場、緑地を除く)を基にした仮配置図を追加。(寸法は資料編に記載)	p15~p17「漁業者算出案」の算出根拠で説明。
	規模を説明するには腰越漁港との比較が必要ではないか。	特に記載はしていない。 漁船の規模や漁業形態(腰越は遊漁船も多い)の違いがあるため、単純に比較することはできないと判断したため。	
	「海岸利用の適正化を進める」との表現は具体的な説明が必要ではないか。		
意見その他	浜小屋がなくなるのは寂しいという住民からの声もあった。⇒空いた場所を有効に市民が楽しむ場として使ったらよいのではないか。	p3「4 漁港の機能・規模について」3段落目(下から9行目以降)に以下を記載 また、鎌倉海岸におけるワカメ加工などの漁業活動は、古くから連続と続くものであり、海岸における漁業活動そのものが鎌倉の風物詩あるいは文化的な景観要素となっていることから、必要最小限の規模での利用を許容することとした。	
	海岸の変遷、134号線ができて小屋が海側に押し出されたが、最近では海岸変形による影響がある。	p6「6 まとめ」最後の2行に以下を記載 「鎌倉の豊かな海を守るために、沿岸漁業の継続が不可欠であることから、漁業者が安全に操業できるよう、(仮称)鎌倉漁港の早期実現を期待する。」※直接的な表現ではないが、漁業環境の改善には漁港が必要という趣旨からも記載した。	
	藻場の重要性と、鎌倉の海には海藻が繁茂していることをアピールした方がいいのではないか。		p8 図 4.3「漁港建設候補地地先の自然環境調査」
	空撮写真に、漁業や生態系、海域利用などの海の情報載せた資料があるとわかりやすい。		p9 図 4.4「漁港建設候補地地先の周辺海域利用状況」 p14 図 6.1「漁港整備に伴う漁業の海岸利用(案)」
まとめ	費用についてはどこに触れるのか。財政的なものを書かないといけないのではないか。	p6「付記」の4に以下を記載 「4 昨今の社会経済状況に鑑み、漁港建設を着実に実現するためにはその整備について段階的に行うことも検討すべきである。」 ※建設費については、今後の基本構想・計画の中で規模や財政事情を勘案しながら、概算事業費を算出することとしたい。	
	答申なので、「…こうすべきだ」と書くべき。	いただいた意見を尊重し、全体的に見直しを行った。	
	「市民合意が不可欠」は「市民合意が必要であり」に直すべき。	p6「付記」の1に以下を記載 「1 漁港建設候補地周辺の居住者等の理解がこの計画には必要であり、今後計画を進めていく上で十分な説明を行うことが重要である。」	
	会長が全体意見をとりまとめて考える。	p5~p6「まとめ」とおり。	

